

第3章 属性分析から



1. 教室内的逸脱行為 D D D

1) 逸脱行為をする生徒のタイプ

「授業の荒れ」は学級によって違いがあるが、学級の中でも、荒れ的な行為をしている生徒がいると思われる。そこで、「荒れ」を引き起こしているような生徒がどのようなタイプなのかを明らかにしたいと思った。

そこで、もう一度、表15(P.18)に戻る。表15は「授業が始まって教科書やノートを出さない」から「教室の後ろに寝ころんだり座ったりしている」までの16項目を示して、それを「何度もある」から「ぜんぜんない」までの形で尋ねている。逸脱行為をしている割合を問うているので、それを活用してみよう。

逸脱行為を「している群」と「していない群」とに生徒を4分するものだが、具体的な

形は別掲1の通りである。なお、逸脱行為を「あまりしていない群」と「ほとんどしていない群」とは、素点にして6点くらいしか開いていないので、ここでは便宜上、逸脱行為を「している群」(別掲1の尺度の56点以下)と「まったくしていない群」(同63点以上)とに分けて、両群の差を調べてみよう。

表23は「学校の楽しさ」と逸脱行為との関連を確かめたものだが、逸脱行為を「している群」は「まったくしていない群」より、「学校を楽しみ」と思う割合が少ない。また、表24によると、「今のクラス担任でよかった」と思う割合が高いのは、逸脱行為を「まったくしていない群」の方という結果である。

したがって、やや類型化した指摘をするなら、逸脱行為をしている生徒は「担任とうまくいっていないし、学校もおもしろいと思っ

ていないタイプ」のように思える。

表25によれば、逸脱行為をしている生徒は「授業が騒がしくて中断される」教師について、「授業がつまらなく、わかりにくい」生徒の気持ちがわからない」などの不満を持つ

ている割合が高い。そして表26でも、授業が中断されても「授業がつまらないから仕方がない」と思う割合は、逸脱行為を「まったくしていない群」の場合、10.8%にとどまるのに、「している群」では42.2%に達する。

別掲1 加算点スケール

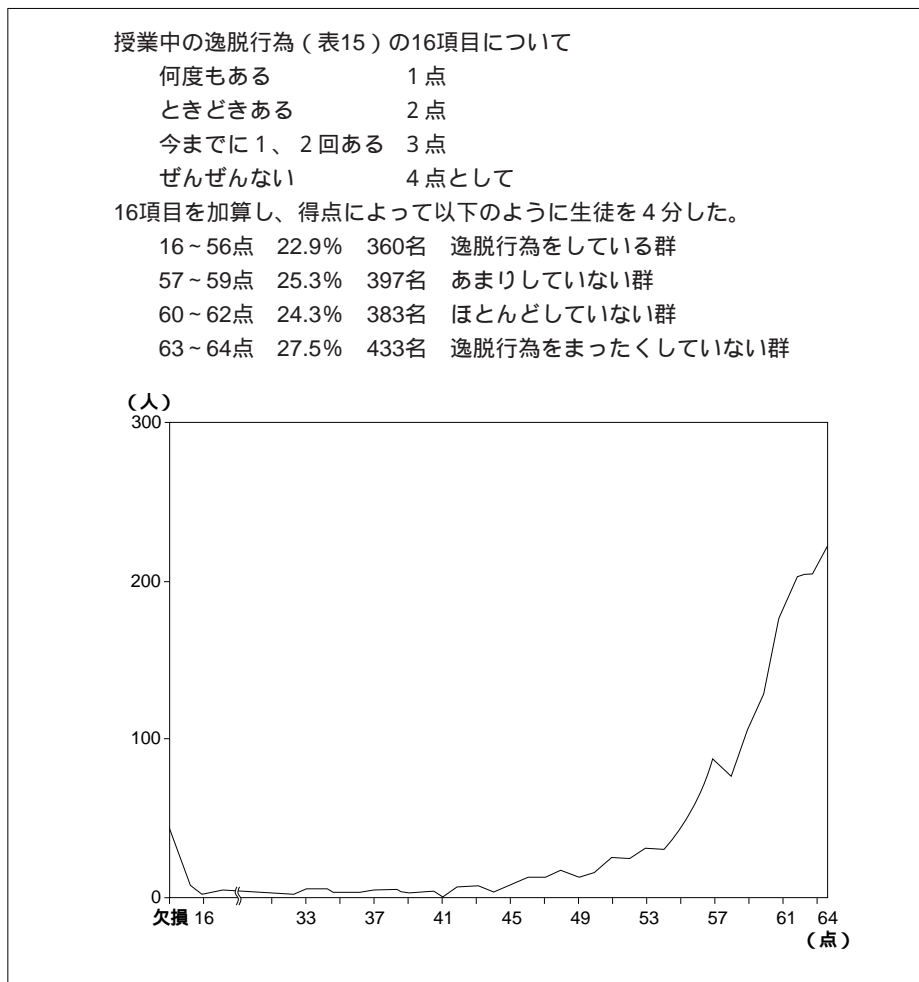


表23 学校の楽しさ × 授業中の逸脱行為

		(%)				
		とても楽しい	わりと楽しい	少し楽しい	あまり楽しくない	ぜんぜん楽しくない
逸脱行為	している群	22.3	35.8	18.8	12.0	11.1
	まったくしていない群	31.8	37.8	18.4	7.5	4.5

表24 今のクラス担任でよかったか（担任への満足）× 授業中の逸脱行為

(%)

		とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
逸脱行為	している群	20.5	22.8	22.5	15.2	19.0
	まったくしていない群	36.5	33.0	18.2	8.5	3.8

表25 「授業が騒がしくて中断される」教師像 × 授業中の逸脱行為

(%)

	逸脱行為	
	している群	まったくしていない群
1. 授業がつまらなく、わかりにくい先生	④7.8	> 25.4
2. 生徒の気持ちがわからない先生	④6.3	> 22.3
3. 決まりに厳しすぎる先生	④4.1	> 22.1
4. 問題が起こると生徒の責任にする先生	40.0	> 20.4
5. 自分勝手な先生	③9.5	> 17.8
6. ひいきしたり、不公平なことをする先生	③7.9	> 17.9
7. あまり生徒をほめない先生	29.8	> 13.1
8. まじめで熱心な先生	28.5	> 25.9
9. 部活動に熱心な先生	24.2	> 14.3
10. 授業中、生徒がしゃべっていても注意しない先生	20.4	> 14.8
11. 忘れ物をすると厳しく叱る先生	19.4	> 15.5
12. 生徒を叱れない先生	19.5	> 12.0
13. 係の仕事や委員会をサボっても注意しない先生	16.2	> 9.8
14. 自習が多い先生	15.9	> 8.8
15. 運動の苦手な先生	15.7	> 5.6

「とても」+「わりと」あてはまる割合は差が20%以上

表26 授業が騒がしくて中断されるのは「授業がつまらないから仕方がない」と思うか × 授業中の逸脱行為

(%)

		とてもそう思う	わりとそう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
逸脱行為	している群	22.1	20.1	31.3	18.7	7.8
	まったくしていない群	3.3	7.5	22.9	34.8	31.5

2) 逸脱行為をする生徒の自己像

ここでいう逸脱行為をしている生徒とは、消しゴムを投げるとか、先生に反抗するなどをしている生徒のことだが、逸脱行為をしている生徒の感覚をもう少し掘りさげてみよう。

表27によれば、「授業崩壊しそうか」につ

いて、逸脱行為を「している群」の16.0%は可能性があると感じている。それに対し、「まったくしていない群」が授業崩壊を感じている割合は6.2%にとどまる。

表28～30にかけては、逸脱行為をしている生徒の属性を明らかにしている。まず、表28によれば、逸脱行為を「している群」は

表27 「授業崩壊」への予感 × 授業中の逸脱行為

(%)

		すでにしている	たぶんすると思う	もしかしたらすると思う	ぜんぜんしないと思う
逸脱行為	している群	9.0	7.0	15.5	68.5
	まったくしていない群	3.8	2.4	5.9	87.9

表28 成績 × 授業中の逸脱行為

(%)

		上の方	中の上	中位	中の下	下の方
逸脱行為	している群	8.8	13.9	33.5	23.6	20.2
	まったくしていない群	12.2	28.0	38.6	13.9	7.3

成績が中位以下の生徒が多い。

また、表29によれば、逸脱行為を「している群」は「すぐカッとなりやすい」や「自分に自信が持てない」と感じているのに対し、逸脱行為を「まったくしていない群」は「規則はきちんと守る」や「がまん強い」と思っている。さらに表30によれば、逸脱行為を「して

いる群」は「疲れやすい」「何となく体がだるい」などと感じている割合が高い。

こうみえてくると、学級で荒れた行為をしている生徒は、体調があまりよくなく、自己像が暗いなどの特性を持っており、そうした鬱積した気持ちが荒れた行為を引き起こすことになるのであろう。

表29 自己像 × 授業中の逸脱行為

(%)

	逸脱行為	
	している群	まったくしていない群
1. すぐカッとなりやすい	21.3	> 9.1
2. 自分に自信が持てない	16.6	> 13.6
3. 人に気をつかう	15.7	< 16.4
4. がまん強い	12.9	< 15.5
5. 規則はきちんと守る	10.0	< 26.2
6. 人といるのが苦手	9.7	> 7.1
7. いつまでもよくよする	8.9	> 7.8

「とてもそう」の割合

表30 健康状態・ストレス × 授業中の逸脱行為

(%)

	逸脱行為	
	している群	まったくしていない群
1. 疲れやすい	27.5	> 15.2
2. 何となく体がだるい	27.0	> 11.4
3. 肩がこる	24.9	> 16.4
4. 頭がボーっとする	24.6	> 14.0
5. すぐイライラする	21.0	> 11.2
6. 食欲がない	14.5	> 5.1

「とても感じる」割合

2 . 規範感覚と逸脱行為 D D D

1) 規範感覚の崩れを類型化

これまでふれてきたように、逸脱行為をし

ている生徒はそれなりの理由が見いだされた。
そこで、行為というより意識に着目してみよう。
規範感覚と逸脱行為との関連を調べよう

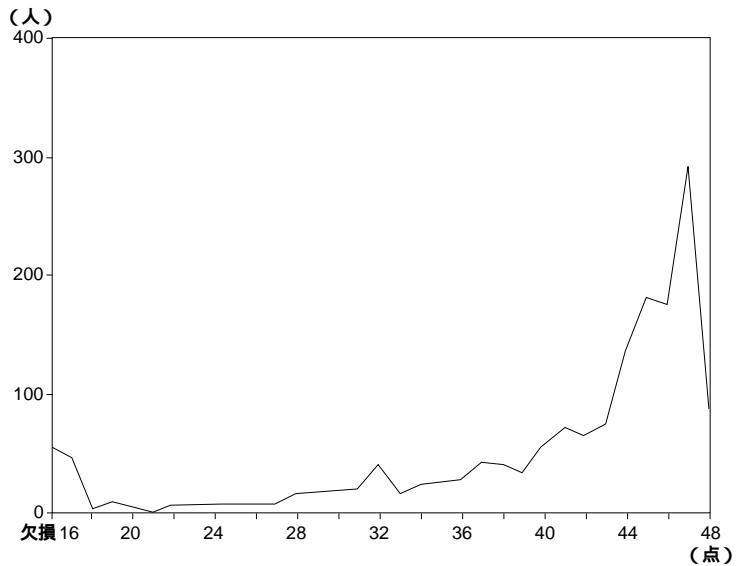
別掲2 加算点スケール

逸脱行為への規範感覚（表22）の16項目について

まあいいじゃない 1点
仕方がない 2点
絶対してはダメ 3点として

16項目を加算し、得点によって以下のように生徒を4分した。

16～37点 22.7% 354名 「荒れ」を許容
38～43点 21.8% 341名 やや許容
44～46点 31.5% 492名 やや否定
47～48点 24.0% 374名 「荒れ」を否定



と別掲2のような尺度化を考えてみた。ここでは、表2ㄨ(P.26)に示した16項目を加算した。

しても「まあいいじゃない」を1点、「絶対してはダメ」を3点にしているのので、点数が多いほど、「荒れた行為をしてはダメ」と否定している感覚の持ち主ということになる。表31は、逸脱行為をしていることと逸脱行為への規範感覚との関係を示している。「授

業が始まって教科書やノートを出さない」生徒は、逸脱行為を肯定している生徒の中で41.7%を占めるが、逸脱行為を否定している生徒は15.8%にとどまる。

このように、当然といえばそれまでだが、規範感覚を持っている生徒が逸脱行為をすることは少ない。それと同じように、逸脱行為をしている生徒に規範感覚の崩れが認められる。

表31 授業中の逸脱行為 × 逸脱行為への規範感覚

(%)

	「荒れ」を許容	やや許容	やや否定	「荒れ」を否定
1. 授業が始まって教科書やノートを出さない	41.7	36.7	21.3	15.8
2. 机の上を彫ったり落書きしたりする	34.8	18.5	7.1	3.2
3. 注意されてもおしゃべりをやめない	36.1	22.3	11.4	10.7
4. アメやガムをこっそり食べている	16.9	2.3	0.6	1.0
5. 教室内を立ち歩く	17.6	5.0	1.8	2.6
6. マンガや小説を読んでいる	15.9	3.9	1.6	1.6
7. トイレや保健室に行く	22.7	11.5	8.1	7.5
8. 消しゴムを小さくして投げる	21.5	14.4	5.9	3.7
9. 先生の注意や叱責に反抗する	21.7	4.1	1.6	1.1
10. 先生が言ったことのあげあしをとる	19.5	5.0	3.2	1.1
11. 友だちの発言をなじったり笑ったりする	23.1	13.9	6.5	4.8
12. 先生の指示や質問を無視する	18.0	5.9	1.6	2.4
13. ウォーキングラジカセなどで音楽を聴いている	9.0	2.7	0.6	1.3
14. 塾の勉強をしている	9.3	3.5	1.8	1.1
15. 紙飛行機を飛ばして遊ぶ	10.8	1.5	0.4	1.6
16. 教室の後ろに寝ころんだり座ったりしている	7.1	1.2	0.4	1.9

○ 「何度も」+「ときどき」ある割合
 — 最大値 - 最小値が20%以上の差

なお表32によれば、規範感覚が崩れ、「荒れ」を許容している生徒は学校を楽しいと思う割合が少ない。それに対し、規範感覚を持ち、「荒れ」を否定している 具体的には、消しゴムを投げるのはよくないと思うような生徒は、学校に楽しさを感じる割合が高い傾向が得られている。

さらに表33によれば、規範感覚が崩れ、「荒れ」を許容している生徒は「担任でよかった」と思う割合が少ない。

2) 崩れの意味

図7(表34)に目をとめてほしい。詳しい数値を表34に示したように、規範感覚が崩

表32 学校の楽しさ × 逸脱行為への規範感覚

(%)

	とても楽しい	わりと楽しい	少し楽しい	あまり楽しくない	ぜんぜん楽しくない
「荒れ」を許容	14.8	34.7	22.0	16.0	12.5
やや許容	20.1	43.3	18.6	12.9	5.1
やや否定	26.8	43.1	17.1	8.5	4.5
「荒れ」を否定	39.8	32.3	18.8	7.2	1.9

表33 今のクラス担任でよかったか(担任への満足)
× 逸脱行為への規範感覚

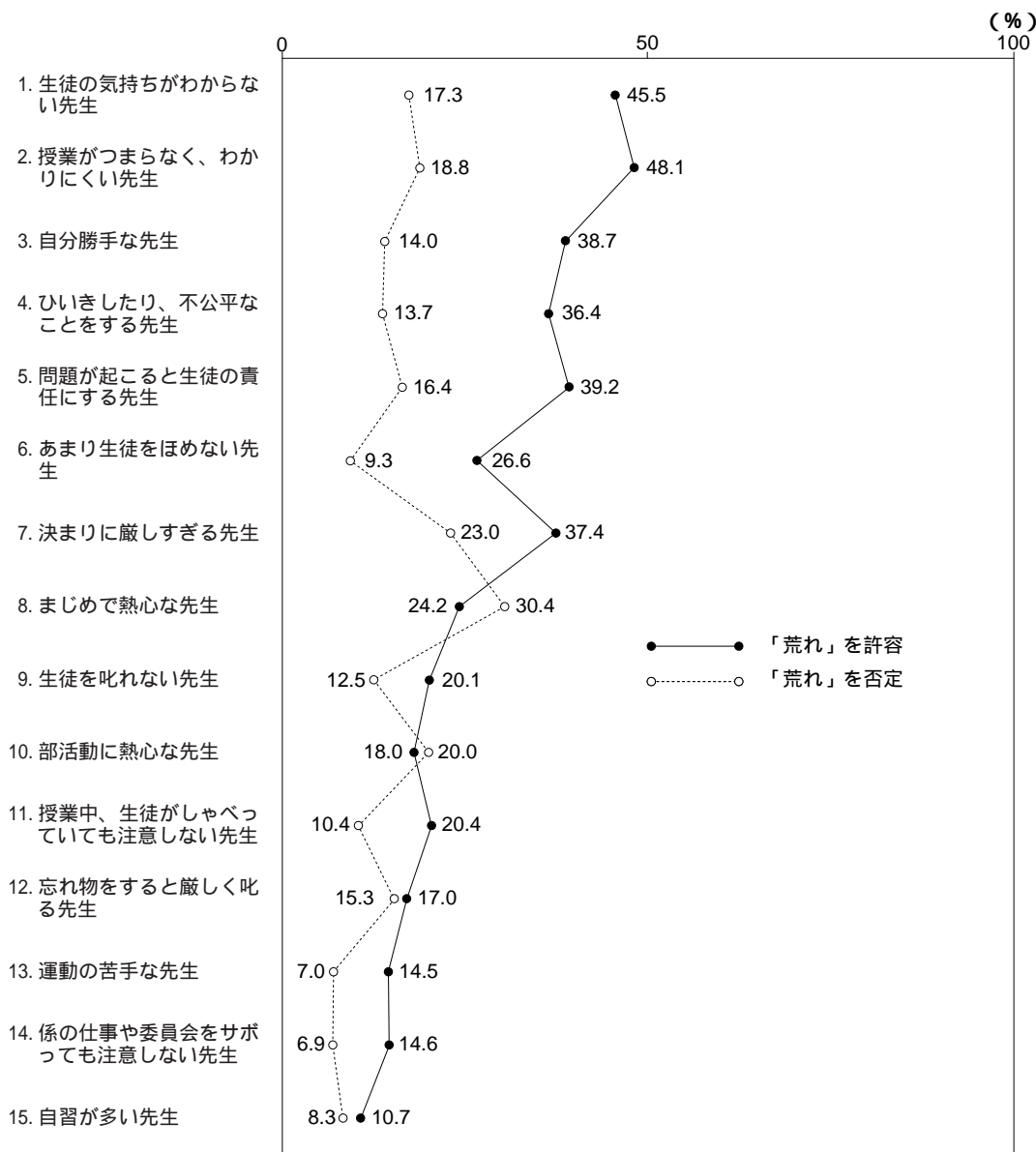
(%)

	とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
「荒れ」を許容	15.2	19.3	25.4	19.6	20.5
やや許容	21.6	32.8	21.3	15.3	9.0
やや否定	30.4	32.4	21.4	8.5	7.3
「荒れ」を否定	41.8	32.5	16.3	5.8	3.6

れ、「荒れ」を許容する生徒の45.5%は、「生徒の気持ちがわからない先生」の時間に授業が中断されるのは仕方がないと思っている。それに対し、「荒れ」を否定している生徒のうち、「生徒の気持ちがわからない先生」の授業が荒れて当然と思う者は17.3%にとどまる。

なお、「授業がつまらないときに、教室が騒がしくなるのも仕方がないと思うか」という問いを行ってみた。「荒れ」を否定している生徒は、授業がつまらなくても静かにすべきだと答えている。しかし、「荒れ」を許容している生徒の47.4%は、「授業がつまらないから仕方がない」と考えている（表35）

図7 「授業が騒がしくて中断される」教師像 × 逸脱行為への規範感覚



「とても」+「わりと」あてはまる割合

表34 「授業が騒がしくて中断される」教師像 × 逸脱行為への規範感覚

(%)

	「荒れ」を許容	やや許容	やや否定	「荒れ」を否定
1. 生徒の気持ちがわからない先生	45.5	37.5	25.1	17.3
2. 授業がつまらなく、わかりにくい先生	48.1	40.4	27.9	18.8
3. 自分勝手な先生	38.7	29.1	21.8	14.0
4. ひいきしたり、不公平なことをする先生	36.4	28.0	21.8	13.7
5. 問題が起こると生徒の責任にする先生	39.2	28.5	21.9	16.4
6. あまり生徒をほめない先生	26.6	21.2	15.4	9.3
7. 決まりに厳しすぎる先生	37.4	33.4	28.9	23.0
8. まじめで熱心な先生	24.2	23.2	27.5	30.4
9. 生徒を叱れない先生	20.1	15.6	12.1	12.5
10. 部活動に熱心な先生	18.0	17.1	18.9	20.0
11. 授業中、生徒がしゃべっていても注意しない先生	20.4	16.2	13.1	10.4
12. 忘れ物をすると厳しく叱る先生	17.0	17.5	17.4	15.3
13. 運動の苦手な先生	14.5	11.4	9.4	7.0
14. 係の仕事や委員会をサボっても注意しない先生	14.6	9.6	9.0	6.9
15. 自習が多い先生	10.7	8.1	9.7	8.3


「とても」+「わりと」あてはまる割合
 は最大値 - 最小値が20%以上の差

表35 授業が騒がしくて中断されるのは「授業がつまらないから仕方がない」と思うか × 逸脱行為への規範感覚

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
「荒れ」を許容	26.3	21.1	30.1	15.2	7.3
やや許容	8.7	16.2	38.9	27.8	8.4
やや否定	4.1	8.0	26.2	39.2	22.5
「荒れ」を否定	0.5	4.6	18.3	39.0	37.6

表36に授業崩壊に対する予感と規範感覚との関連を示した。規範感覚が崩れ、「荒れ」を許容している生徒は授業崩壊を予感している。なお表37によれば、規範感覚が崩れ、「荒れ」を許容している生徒は成績下位層だけでなく、上位層にも認められる。

逸脱行為への規範感覚と自己像とを関連させると、図8(表38)のようになる。規範感覚

が崩れ、「荒れ」を許容している生徒は、「すぐカッとなりやすい」や「自分に自信が持てない」「人といるのが苦手」な生徒が多い。

それと同時に、表39のように、規範感覚が崩れ、「荒れ」を許容している生徒は「疲れやすい」や「すぐイライラする」と感じている割合が高い。

表36 「授業崩壊」への予感 × 逸脱行為への規範感覚

(%)

	すでにしている	たぶん と思う	もしかしたら と思う	ぜんぜん しないと思う
「荒れ」を許容	10.9	7.2	14.9	67.0
やや許容	4.5	3.3	12.4	79.8
やや否定	2.1	2.5	7.7	87.7
「荒れ」を否定	3.1	0.6	5.6	90.7

表37 成績 × 逸脱行為への規範感覚

(%)

	上の方	中の上	中位	中の下	下の方
「荒れ」を許容	10.6	18.6	33.0	21.5	16.3
やや許容	9.5	22.3	36.6	18.8	12.8
やや否定	7.5	24.9	38.5	18.9	10.2
「荒れ」を否定	11.0	23.4	37.6	16.5	11.5

図8 自己像 × 逸脱行為への規範感覚

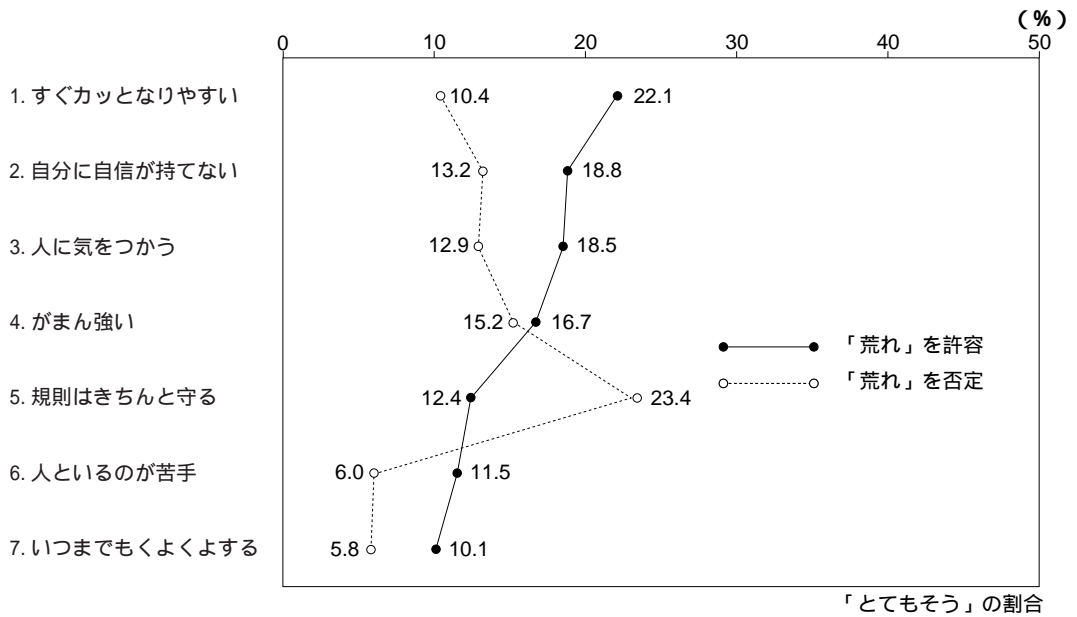


表38 自己像 × 逸脱行為への規範感覚

(%)

	「荒れ」を許容	やや許容	やや否定	「荒れ」を否定
1. すぐカッとなりやすい	22.1	13.4	13.3	10.4
2. 自分に自信が持てない	18.8	14.3	13.1	13.2
3. 人に気をつかう	18.5	15.2	15.1	12.9
4. がまん強い	16.7	9.5	11.4	15.2
5. 規則はきちんと守る	12.4	9.5	17.1	23.4
6. 人といるのが苦手	11.5	5.9	8.3	6.0
7. いつまでもくよくよする	10.1	4.5	5.4	5.8

「とてもしょう」の割合

表39 健康状態・ストレス × 逸脱行為への規範感覚

(%)

	「荒れ」を許容	やや許容	やや否定	「荒れ」を否定
1. 肩がこる	31.7	23.1	18.8	14.8
2. 疲れやすい	31.4	19.6	20.5	15.3
3. 頭がボーっとする	29.4	20.2	15.1	10.9
4. 何となく体がだるい	28.9	17.2	17.4	12.0
5. すぐイライラする	24.3	13.7	14.1	12.6
6. 食欲がない	13.5	8.9	8.1	4.9

「とても感じる」割合

3. 「授業の荒れ」の背景 DDD

1) 学業成績との関連

これまでふれたように、「授業の荒れ」を起こしている生徒はたまたま荒れているのではなく、①自己像が暗い、②自分に自信が持てない、③学校が楽しくない、④担任とうまくいっていない、などの属性の持ち主だった。

したがって、授業が荒れているとき、「荒れ」の中心となるのは学級に不適応を起こしている生徒で、それだけに、生徒のサイドに立つと、「荒れ」にはそれなりの理由があるようにみえる。

そこで、もう少し他の側面から、「荒れ」の背景を探ることにしよう。別掲3は「学校の楽しさ」の類型化を示している。この類型と逸脱行為との関連を示したのが、表40である。表中の数値が示すように、教室内で逸

脱行為をしているのは、学校が「楽しくない」と思っている生徒に多い。

学校生活の中では学業成績の持つ意味は大きい。そこで、成績を別掲4の形で類型化してみた。そして、逸脱行為と成績との関連を確かめると、図9(表41)となる。

図が示すように、成績の上位群と下位群との間は、授業中に「塾の勉強をしている」と「先生の指示や質問を無視する」の2項目を除くと、下位群の方が「まあいいじゃない」の割合が高い。したがって、逸脱行為に対する感覚が下位群の方が崩れているのは確かであろう。しかし、その差はきわめて少ない。したがって、成績下位群の生徒だけが荒れていると考えるのは短絡的すぎよう。上位群の生徒も反抗している者が少なくないことを感じさせる。

別掲3 「学校の楽しさ」のカテゴリ

(%)

とても楽しい	わりと楽しい	少し楽しい	あまり楽しくない	ぜんぜん楽しくない
25.8	38.7	18.8	10.9	5.8
⋮			└──────────┘ 16.7	
楽しい群			楽しくない群	

表40 授業中の逸脱行為 × 学校の楽しさ

(%)

	楽しい群 (A)	楽しくない群 (B)	差 (B)-(A)
1. 授業が始まって教科書やノートを出さない	23.3	34.4	11.1
2. 先生の注意や叱責に反抗する	4.2	14.5	10.3
3. 机の上を彫ったり落書きしたりする	12.2	20.2	8.0
4. トイレや保健室に行く	10.7	18.1	7.4
5. 先生の指示や質問を無視する	5.6	12.6	7.0
6. マンガや小説を読んでいる	3.4	10.0	6.6
7. 先生が言ったことのあげあしをとる	6.1	11.8	5.7
8. 教室内を立ち歩く	6.2	11.5	5.3
9. アメやガムをこっそり食べている	4.5	9.2	4.7
10. 注意されてもおしゃべりをやめない	19.1	23.0	3.9
11. 教室の後ろに寝ころんだり座ったりしている	2.5	5.7	3.2
12. 友だちの発言をなじったり笑ったりする	11.5	14.3	2.8
13. 消しゴムを小さくして投げる	8.9	11.5	2.6
14. 紙飛行機を飛ばして遊ぶ	3.6	6.2	2.6
15. 塾の勉強をしている	3.4	5.4	2.0
16. ウォーキングラジカセなどで音楽を聴いている	3.4	4.5	1.1

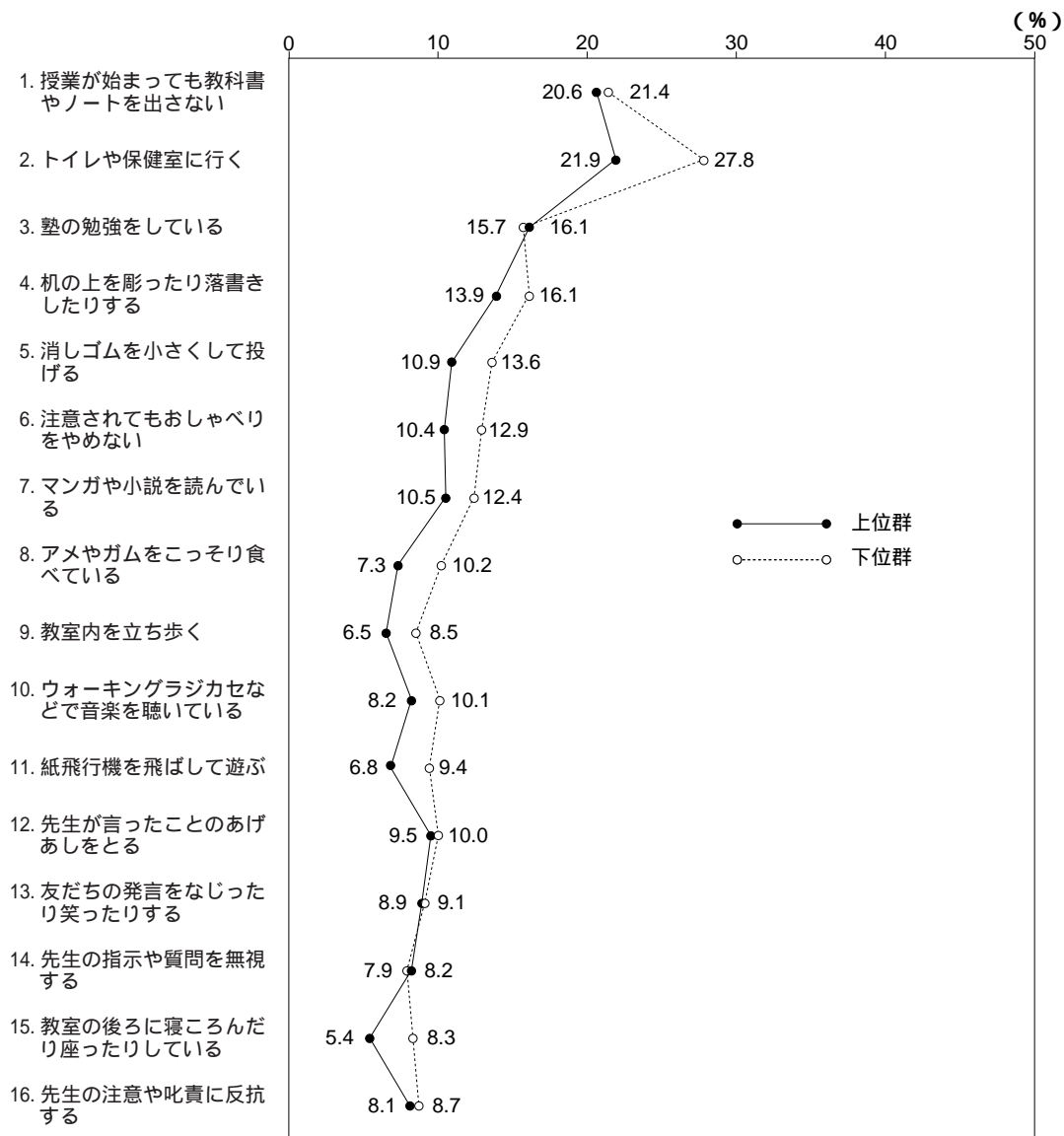
「何度も」+「ときどき」ある割合

別掲4 「成績」の 카테고리

(%)

上の方	中の上	中位	中の下	下の方
9.5	22.4	36.7	18.8	12.6
31.9 上位群		中位群	31.4 下位群	

図9 逸脱行為への規範感覚 × 成績



「まあいいじゃない」の割合

表41 逸脱行為への規範感覚 × 成績

(%)

	上位群 (上の方・中の上)	中位群 (中位)	下位群 (中の下・下の方)
1. 授業が始まって教科書やノートを出さない	20.6 [41.8]	17.3 [40.3]	21.4 [34.8]
2. トイレや保健室に行く	21.9 [12.1]	20.0 [9.9]	27.8 [10.5]
3. 塾の勉強をしている	16.1 [61.1]	14.6 [60.0]	15.7 [57.3]
4. 机の上を彫ったり落書きしたりする	13.9 [63.5]	13.6 [65.0]	16.1 [60.1]
5. 消しゴムを小さくして投げる	10.9 [69.4]	10.8 [70.8]	13.6 [64.1]
6. 注意されてもおしゃべりをやめない	10.4 [65.5]	7.5 [62.4]	12.9 [56.2]
7. マンガや小説を読んでいる	10.5 [80.2]	7.8 [78.6]	12.4 [72.2]
8. アメやガムをこっそり食べている	7.3 [85.1]	6.4 [85.8]	10.2 [78.0]
9. 教室内を立ち歩く	6.5 [79.6]	6.6 [77.7]	8.5 [72.8]
10. ウォーキングラジカセなどで音楽を聴いている	8.2 [84.5]	5.9 [85.1]	10.1 [78.9]
11. 紙飛行機を飛ばして遊ぶ	6.8 [80.9]	6.3 [80.7]	9.4 [77.0]
12. 先生が言ったことのあげあしをとる	9.5 [71.6]	6.4 [72.2]	10.0 [70.7]
13. 友だちの発言をなじったり笑ったりする	8.9 [69.2]	6.8 [70.6]	9.1 [64.4]
14. 先生の指示や質問を無視する	8.2 [74.8]	5.8 [75.9]	7.9 [71.6]
15. 教室の後ろに寝ころんだり座ったりしている	5.4 [86.9]	4.9 [86.1]	8.3 [79.7]
16. 先生の注意や叱責に反抗する	8.1 [72.0]	6.1 [74.3]	8.7 [72.2]

左 = 「まあいいじゃない」の割合
 右 = []内は「絶対してはダメ」の割合

2) 担任との関係

表42は、生徒たちの自己評価と逸脱行為との関連を示している。表中の○印から明らかなように、「すぐカッとなりやすい」生徒が逸脱行為をしている割合が高い。担任に不満を持っている生徒の中でも、カッとなるタイプが行動にでる。それに、他の生徒が連動して教室が騒がしくなるのであろう。

担任と「荒れ」との関係を確認するために、別掲5のようなカテゴリーを作成した。このカテゴリーと「荒れ」との関連を示すと、図10(表43)のような傾向が得られる。担任に満足している生徒が「先生の注意や叱責に反抗する」のは2.7%、「先生の指示や質問を無視する」も3.0%にとどまる。しかし、担任に不満な生徒が先生に反抗する割合は17.4%、無視は15.6%に達する。

表42 授業中の逸脱行為 × 自己評価

	とてもそう(感じる)			
	規則は きちんと守る	がまん強い	すぐカッ なりやすい	すぐ イライラする
1. 授業が始まっても教科書やノートを出さない	19.2	27.2	40.3	36.3
2. 注意されてもおしゃべりをやめない	16.8	25.3	28.2	25.3
3. 消しゴムを小さくして投げる	9.6	14.1	17.8	13.0
4. 友だちの発言をなじったり笑ったりする	12.0	15.6	18.8	17.2
5. 塾の勉強をしている	6.8	7.8	10.0	9.4
6. 机の上を彫ったり落書きしたりする	8.0	19.6	25.7	24.3
7. 紙飛行機を飛ばして遊ぶ	5.6	7.9	7.9	7.1
8. 教室内を立ち歩く	6.8	11.7	13.5	12.2
9. 先生が言ったことのあげあしをとる	8.0	10.2	13.5	11.4
10. 先生の注意や叱責に反抗する	7.6	11.2	14.9	14.2
11. トイレや保健室に行く	9.6	13.2	18.3	19.8
12. マンガや小説を読んでいる	5.2	7.7	13.5	10.2
13. 教室の後ろに寝ころんだり座ったりしている	5.2	6.8	6.1	6.3
14. アメやガムをこっそり食べている	5.2	8.2	12.1	9.5
15. 先生の指示や質問を無視する	6.0	10.7	13.5	13.0
16. ウォーキングラジカセなどで音楽を聴いている	5.6	7.3	7.4	6.3

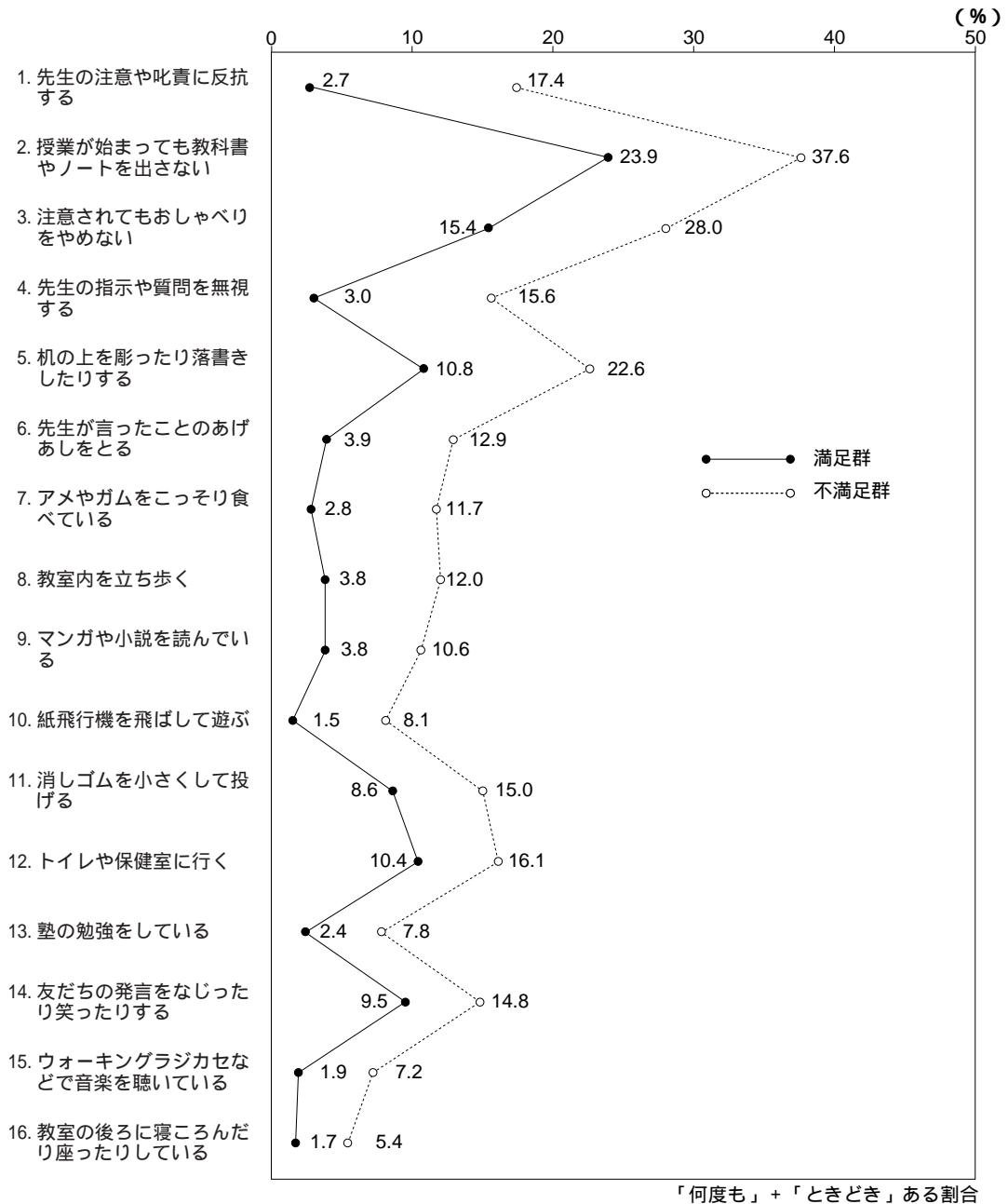
「何度も」+「ときどき」ある割合
○は4群中の最大値

別掲5 「今のクラス担任でよかったか」の 카테고리

(%)

とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
28.1	29.5	21.0	11.6	9.8
満足群			不満足群	
			21.4	

図10 授業中の逸脱行為 × 担任への満足



さらに図11(表44)によると、担任に不満を持っている生徒は実際に教室の「荒れ」が起こっているか、起こっていないにしても、荒れる可能性が大きいと感じている。

①授業に気持ちが向かない

すでにそう たぶんなる 小計
 満足群 9.5% + 23.1% = 32.6%
 不満足群 27.1% + 32.3% = 59.4%

②教室内を立ち歩く

満足群 9.4% + 4.5% = 13.9%
 不満足群 20.2% + 9.9% = 30.1%

したがって、「授業の荒れ」は担任に対する気持ちがカギになっており、担任に不満があると、授業が荒れやすいのであろう。

表43 授業中の逸脱行為 × 担任への満足

(%)

	満足群 (A)	不満足群 (B)	差 (B)-(A)
1. 先生の注意や叱責に反抗する	2.7	17.4	14.7
2. 授業が始まって教科書やノートを出さない	23.9	37.6	13.7
3. 注意されてもおしゃべりをやめない	15.4	28.0	12.6
4. 先生の指示や質問を無視する	3.0	15.6	12.6
5. 机の上を彫ったり落書きしたりする	10.8	22.6	11.8
6. 先生が言ったことのあげあしをとる	3.9	12.9	9.0
7. アメやガムをこっそり食べている	2.8	11.7	8.9
8. 教室内を立ち歩く	3.8	12.0	8.2
9. マンガや小説を読んでいる	3.8	10.6	6.8
10. 紙飛行機を飛ばして遊ぶ	1.5	8.1	6.6
11. 消しゴムを小さくして投げる	8.6	15.0	6.4
12. トイレや保健室に行く	10.4	16.1	5.7
13. 塾の勉強をしている	2.4	7.8	5.4
14. 友だちの発言をなじったり笑ったりする	9.5	14.8	5.3
15. ウォーキングラジカセなどで音楽を聴いている	1.9	7.2	5.3
16. 教室の後ろに寝ころんだり座ったりしている	1.7	5.4	3.7

「何度も」+「ときどき」ある割合

図11 「授業の荒れ」の判断 × 担任への満足

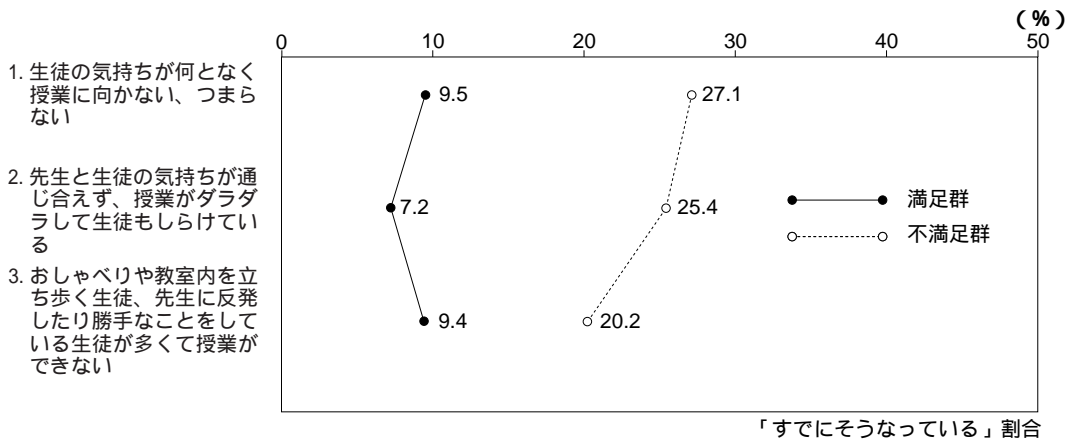


表44 「授業の荒れ」の判断 × 担任への満足

		(%)			
		すでにそう なっている	たぶん なると思う	もしかすると なると思う	ぜんぜん ならないと思う
1. 生徒の気持ちが何となく授業に向かない、つまらない	満足群	9.5	23.1	48.7	18.7
	不満足群	27.1	32.3	30.7	9.9
2. 先生と生徒の気持ちが通じ合えず、授業がガラガラして生徒もしらけている	満足群	7.2	20.3	40.5	32.0
	不満足群	25.4	30.2	31.4	13.0
3. おしゃべりや教室内を立ち歩く生徒、先生に反発したり勝手なことをしている生徒が多くて授業ができない	満足群	9.4	4.5	9.4	76.7
	不満足群	20.2	9.9	11.7	58.2